

日本発生生物学会の機関誌 *Development, Growth & Differentiation (DGD)* の歴史と現在

日本発生生物学会DGD編集主幹
八杉 貞雄

歴史

1969 旧Embryologiaから受け継いでDGDを
発刊(第11巻から)

1986 海外販売をAcademic Pressに委託(円高
による損失)

1995 製作および海外販売をBlackwell
Publishingに委託

Blackwell Synergyへの掲載

2004 Electronic submission (ManuscriptCentral)
開始

2005 年9号化

2005 過去の論文のアーカイブス(Blackwell)

現在の状況(1)

QUARTERLY
TIFANALOGICAL RESEARCH
C™C=CAEENE EECWACCEZOVAC...QOROVCC

- ・発行回数 年6回(2005年から9回)
- ・ページ数 年580-750ページ
- ・論文数 年50-70編
- ・論文採択率 70-75%
- ・Impact factor 1.5 (2003)

・編集委員会

Eitor-in-chief	1名
Editors	14名
Editorial board	19名(外国人7名)
Advisory board	24名(外国人12名)

現在の状況(2)

QuickTimeのインストールを完了しました。このファイルを開くには、QuickTime Playerが必要です。

- ・販売実績 (2003) 258機関(外国 229)
- ・主要な発生生物学雑誌の価格(Blackwell)

雑誌名	IF	issues/year	\$/page
Development	7.9	24	0.44
Dev. Biol.	5.2	24	1.00
Genes to Cells	4.3	12	1.54
Mech. Dev.	3.5	12	4.34
Dev. Dyn.	3.8	12	1.64
DGD	1.5	6	0.91
Int. J. Dev. Biol.	1.5	8	0.84

現在の状況(3) 予算関係

収入 およそ1900万円

(文部科学省助成金 630万円・平成16年度))

支出 DGD刊行費 およそ900万円

印刷費・発送費 650万円

編集費 250万円

現在の状況(4)問題点

- ・投稿論文数の減少(特に2004年4月－6月)
論文内容の低下、販売数の低下
(特別号の出版等必要)
- ・掲載までの期間(発刊前の公表の検討)
- ・査読者選定の困難(分野別主幹の必要性)